

展示室1 歌う絵画

演劇と音楽、舞踏、文学、舞台の建築、ポスターといったグラフィック・アート——ありとあらゆる芸術が交差する場所、それが舞台芸術とされます。この展示では、イギリス美術をとおして、ヨーロッパ演劇の源流となるギリシャ悲劇から中世以降のイギリスの聖史劇、シェイクスピアの戯曲、ヴェルディやワーグナーの19世紀オペラ、そして現代映画まで、舞台を彩る人物と物語を追います。絵画をたどれば、ヨーロッパ舞台芸術の歴史の一端が見えてくることでしょう。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
ジョン・フラクスマン原画、トンマーゾ・ピロリ版刻	アイスキュロス『悲劇より』(1831年版) 表紙 岩に縛られたプロメテウス(『縛られたプロメテウス』より) ダナオスの娘たちの祈り(『救いを求める女たち』より) 使者を止めるペラスゴス(『救いを求める女たち』より) エテオクレスとポリュネイケスの決闘(『テバイ攻めの七将』より) ポリュネイケスとエテオクレスの哀悼(『テバイ攻めの七将』より) トロイア陥落後のアガメムノンの帰還(『アガメムノン』より) アガメムノンの哀悼(『アガメムノン』より) クリュタイムネストラとアイギストスを殺すオレステス(『供養する女たち』より) 犠牲者を追いかける復讐の女神エリニースたち(『慈しみの女神たち』より) アテナ、アポロン、オレステスのもとを立ち去る復讐の女神エリニースたち(『慈しみの女神たち』より) アトッサの夢(『ペルシャ人』より) ペルシャ人の敗北(『ペルシャ人』より)	1831	ラインエングレーヴィング・紙/ポートフォリオ (ローダー・コレクション)
ジョン・フラクスマン原画、ウィリアム・ブレイク版刻	『神統紀、仕事と日々とヘシオドスの生きた時代』より ヘシオドスとムーサたち	1816-7	スティップル、ラインエングレーヴィング・紙/ポートフォリオ (ローダー・コレクション)
ポール・ナッシュ	『フォード・マドックス・フォード(ヘファー)による ポスフォラス氏とミュースの神々』表紙(パルナッソス)	1923	木版・紙/本 (ローダー・コレクション)
デイヴィッド・ジョーンズ	チェスター劇「大洪水」のための10点の挿絵集 (クローバー・ヒル・エディションズ)	1977	木口木版/ポートフォリオ (ローダー・コレクション)
サー・エドワード・コーリー・バーン=ジョーンズ	『フラワー・ブック』より べツレヘムの星	1905	リトグラフ・紙/ポートフォリオ
サー・エドワード・コーリー・バーン=ジョーンズ	『フラワー・ブック』より 旅人の喜び	1905	リトグラフ・紙/ポートフォリオ
ヒラリー・ペブラー(画・刻)	『三人の賢者』	1929	木口木版/本 (ローダー・コレクション)
ウィリアム・ブレイク	眠るダンカン王に近づくマクベス夫人		水彩、インク・紙
サー・エドワード・コーリー・バーン=ジョーンズ	『フラワー・ブック』より 壁越しの逢引き	1905	リトグラフ・紙/ポートフォリオ
オーブリー・ビアズリー	『トリスタンとイゾルデ』表紙デザイン	1893-4頃	ラインブロック・紙
オーブリー・ビアズリー	タンホイザー		写真製版
オーブリー・ビアズリー	T. マロリー『アーサー王の死』	1893-4	ラインブロック・紙/本(分冊12点)
サー・エドワード・コーリー・バーン=ジョーンズ	アヴァロンにおけるアーサー王の眠り	1894	グワッシュ・紙
オーブリー・ビアズリー	ジュゼッペ・ヴェルディ		写真製版
フォード・マドックス・ブラウン	牢獄のジャコポ・フォスカリ	1869	チョーク・紙
オーブリー・ビアズリー	おまえの口に口づけしたよ、ヨカーナ (オスカー・ワイルド『サロメ』挿絵)	1893	ラインブロック・紙
サー・エドワード・コーリー・バーン=ジョーンズ	『フラワー・ブック』より 目覚めて、愛しい人よ!	1905	リトグラフ・紙/ポートフォリオ
デイヴィッド・ホックニー	『六つのグリム童話(C版)』成長したラプンツェル (『ラプンツェル』より)	1969-70	エッチング、アクアチント・紙
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	カンバーランド州のコールダー・ブリッジ	1810	油彩・キャンバス
サー・ジョシュア・レイノルズ	エグリントン伯爵夫人、ジェーンの肖像	1777	油彩・キャンバス
ジョン・コンスタブル	デダムの谷	1802	油彩・紙、キャンバス

展示室2 近代洋画 – 水辺を描く –

生活の場として、憩いの場として、人の営みに欠かせない“水辺”。水はもっとも身近でありながら、浄めの意味をもつ神聖な存在でもありました。日本美術において、川や湖、滝など水にまつわる自然は、伝統的な画題として重要視され続けてきましたが、油彩画・水彩画といった西洋の技法を取り入れた明治以降の洋画家にとっても親しみ深いテーマでした。

その土地らしさを有する名所としての水景、また日常の景色や寛ぎの場としての水辺、いずれにも情景の美を描き出すために、洋画家たちが西洋由来の画材を駆使しているさまが見てとれるでしょう。水面に煌めく画家の個性をお楽しみください。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
川村 清雄	滝	1919 (大正 8)	油彩・キャンバス	
諫山 麗吉	甲州猿橋		油彩・キャンバス	
野崎 華年	富士	1907 (明治 40)	油彩・キャンバス	
高木 背水	英国帝室植物園		油彩・キャンバス	
吉田 博	ウィンザー橋	1906 (明治 39) 頃	水彩・紙	
武内 鶴之助	ウィンザー城		パステル・ボード	
三宅 克己	箱根		水彩・紙	
原 撫松	鯉を見る少女		水彩・紙	原優子氏寄贈
小寺 健吉	アンシイ湖畔	1922 (大正 11)	水彩・紙	
小寺 健吉	セーヌ河畔	1922 (大正 11)	水彩・紙	
中澤 弘光	灯 (加茂川夕涼)	1914 (大正 3)	油彩・キャンバス	
諫山 麗吉	神戸付近の風景		油彩・キャンバス	
中川 八郎	秋の河辺		水彩・紙	
鹿子木 孟郎	綾瀬 (スケッチ)	1893 (明治 26)	鉛筆・紙	
鹿子木 孟郎	綾瀬		水彩・紙	
吉田 博	夕暮		水彩・紙	
高橋 勝蔵	水辺	1905 (明治 38)	水彩・紙	
川村 清雄	水郷		油彩・キャンバス	木村喜昭氏寄贈
栗原 忠二	遠くに橋の見える風景、ストランド＝オン＝グリーン		油彩・ボード	
三宅 克己	セーヌ河畔サンジェルマンを望む		水彩・紙	
互井 開一	ヴェトゥイユ		グワッシュ・紙	小針代助氏寄贈
水野 以文	水辺の風景		水彩・紙	
石川 欽一郎	ロンドン・テムズ河岸ハマースミス	1922 (大正 11) 頃	水彩・紙	
南 薫造	河べりから見た風景		水彩・紙	
南 薫造	河と並木		水彩・紙	
後藤 工志	夏の川辺		水彩・紙	
織田 一磨	京町堀、千秋橋からの眺め	1934 (昭和 9) 頃	水彩、木炭・紙	
石川 寅治	泊河口 『琉球』	1912 (明治 45)	水彩、パステル・紙／画帖	

展示室3 抽象絵画を見る

「あなたの話は抽象的ですね」といわれて、うれしい人は少ないかもしれません。それは、その話が「わかりにくくて、あいまい」であることを意味するからです。抽象絵画は、そうした絵のことでしょか？

抽象という漢字から、鼻の長い象を描いた絵を連想してしまうと、抽象絵画からはなれてしまいます。しかし、その象は、それがほかの動物と区別できる固有の「かたち」をもっています。抽象の「象」とは「かたち」のことでした。そして、抽象絵画とは、具体的な「もの」をつくりあげている「かたち」、そして「色」「線」そのものに注目する絵なのです。

力強い線や、明るい色、色の対比、色とかたちから生まれる動き、リズム感などに気づきだすと、抽象絵画がとたんにおもしろくなってきます。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
今井 俊満	コンポジション 23	1959 (昭和 34)	油彩・キャンバス
勝呂 忠	ひろがり (A)	1962 (昭和 37)	油彩、樹脂・キャンバス
佐藤 昭一	コンポジション	1959	油彩・キャンバス 佐藤昭一氏寄贈
佐藤 昭一	作品 61	1961	油彩、パテ・キャンバス 佐藤昭一氏寄贈
堂本 尚郎	1962 - 18 (二元的なアンサンブル)	1962	油彩・キャンバス
リチャード・ゴーマン	フラット (ナイン・ペインティングスより)	2000	油彩・キャンバス
勝呂 忠	浮遊する 3 本の線	1989 (平成元)	油彩・キャンバス
ヴィクター・パスモア	ワインレッド (version 1)	1964	レリーフペインティング・パネル
デйм・バーバラ・ヘップワース	ふたつのフォルム、青	1958	油彩ボード
ベン・ニコルソン	ワン・イン・ワン	1978	ミクストメディア・メゾチント
アラン・グリーン	ドローイング 336	1995	ミクストメディア・紙
アラン・グリーン	ドローイング 339	1995	ミクストメディア・紙

展示室 4-① 版画の幻想世界

近代以降、作家個人の独創性が評価の主軸となっていた版画芸術の世界。そこには原画を描き、版を刻み、摺るという、全ての工程を一人が担う事で得られる創作の喜びがありました。S. W. ヘイターが一版多色刷エッチングという独自の技法を開発したように、また柄澤齊が伝統的な木口木版技法を深化させたように、版画家たちはそれぞれ技法を追求します。

そうした創作自体への関心は、作家独自の想像の世界を忠実に描き出す上で大切な要素となっています。躍動する線や色彩による心象風景、物語を感じさせる空想世界、現実を映す鏡として描かれた幻影など、様々なイメージの質感や量感を熟練の技が支えているのです。

作家の確かな技量と想像力が織りなす幻想の世界を、どうぞお楽しみください。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
デイヴィッド・ホックニー	こわさを習いに出かけた若者の話 (家)	1969-70	エッチング・紙
デイヴィッド・ホックニー	(鐘楼)	1969-70	エッチング、アクアチント・紙
スタンリー・ウィリアム・ヘイター	緑陰	1963	エッチング、スクレイパー・紙
スタンリー・ウィリアム・ヘイター	花火	1958	エッチング・紙
斎藤 寿一	波と月 (B)	1964 (昭和 39)	ディープエッチング・紙
斎藤 清	MEDITATION 黙想	1969 (昭和 44)	ドライポイント・紙
斎藤 清	NUDE (A)	1969 (昭和 44)	ドライポイント・紙
柄澤 齊	『死と変容 夜』より 汝の死は我が命	1988 (昭和 63)	木口木版・紙/ポートフォリオ
柄澤 齊	『死と変容 夜』より 夢または流刑	1988 (昭和 63)	木口木版・紙/ポートフォリオ
柄澤 齊	『死と変容 夜』より 水	1988 (昭和 63)	木口木版・紙/ポートフォリオ
武井 武雄	『書窓版画帖十連聚其六 宇宙説』(アオイ書房)	1942 (昭和 17)	エッチング、ドライポイント・紙/本
恩地 孝四郎	Lyrique No. 3 楽曲によせる抒情 ラヴェル “道化師の朝歌”	1933 (昭和 8)	木版・紙
岩谷 徹	微睡	1974 (昭和 49)	メゾチント・紙
秀島 由己男	Shell	1985 (昭和 60)	メゾチント・紙/ポートフォリオ
秀島 由己男	Paper Balloon	1985 (昭和 60)	メゾチント・紙/ポートフォリオ
安部 直人	まなざし	1990 (平成 2)	エッチング、メゾチント・紙
中林 忠良	囚われる日々 II	1974 (昭和 49)	エッチング、アクアチント、メゾチント、ディープエッチング・紙
泉 茂	ヨット	1958 (昭和 33) 頃	リトグラフ・紙
泉 茂	春		リトグラフ・紙
池田 満寿夫	空の寝台	1969 (昭和 44)	ドライポイント、エッチング、ルーレット、メゾチント・紙
駒井 哲郎	13	1959 (昭和 34)	エッチング、アクアチント、エングレーヴィング・紙
駒井 哲郎	調理場 (La Cuisine)	1958 (昭和 33)	エッチング、アクアチント・紙
山下 清澄	『七つの幻想庭園』(アンドレ・P・マンディアルグ著)	1983 (昭和 58)	カラーエッチング、アクアチント・紙/ポートフォリオ

展示室4-② 美しきガラス

光の反射や透過によって、さまざまな表情を楽しむことができるのはガラスという素材の最大の魅力です。グラスや皿、花器など、ガラスは私たちの日常生活と深くかかわっています。また、そのデザイン性の高さや美しさから実用を超えて鑑賞の対象ともなっています。

当館では、郡山市出身のガラス工芸家・佐藤潤四郎(1907-1988)、イギリスで活躍したデザイナーのクリストファー・ドレッサー(1834-1907)によるガラス作品を多く所蔵しています。ここでは、二人の作家を中心に「美しい」ガラス作品を特集します。

2022年は国連によって「国際ガラス年2022」と定められています。記念すべき年に、当館でさまざまなガラスをお楽しみください。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
佐藤 潤四郎	ステンドグラス・窯		ガラス、鉄	小林東洋氏寄贈
佐藤 潤四郎	ブルー花器		ガラス/宙吹	
佐藤 潤四郎	花器・穴があいてちょっと考えた	1980-82 (昭和55-57) 頃	ガラス/宙吹・カット	
佐藤 潤四郎	花器	1980年代	ガラス/宙吹、プランツ	
佐藤 潤四郎	花器・何をしようか	1986 (昭和61)	ガラス/宙吹	
佐藤 潤四郎	花器 (グリーン)		ガラス/宙吹	
佐藤 潤四郎	花器 (グリーン)		ガラス/宙吹	
佐藤 潤四郎	植物文一輪挿し		ガラス/宙吹・グラヴェール	
佐藤 潤四郎	花器 (カットグラス)	1986 (昭和61)	ガラス/型吹・エッチング、カット	
佐藤 潤四郎	ルーマー杯・大好きな形		ガラス/宙吹・プランツ	
佐藤 潤四郎	ルーマー杯 (グリーン)		ガラス/宙吹・プランツ、雲母封入	石川和子氏、長谷川貴子氏寄贈
佐藤 潤四郎	ルーマー杯・なみなみのワインを		ガラス/宙吹・グラヴェール、プランツ	
佐藤 潤四郎	タンブラー (6点)		ガラス/型吹ほか	佐藤久枝氏寄贈
佐藤 潤四郎	グリーン大杯・ガラスの神様	1980年代	ガラス/宙吹、プランツ、グラヴェール	
佐藤 潤四郎	大杯・ガラスを吹く人	1986 (昭和61)	ガラス/宙吹・グラヴェール、プランツ	
佐藤 潤四郎	花器 (雲母入り)		ガラス/宙吹・雲母封入	
佐藤 潤四郎	雲母入り花器		ガラス/宙吹・雲母封入	
佐藤 潤四郎	花器 (カレット入り)		ガラス/宙吹・カレット封入	
吉田 丈夫	クリスタル瓶《瓢》		ガラス/宙吹	田淵十一氏寄贈
各務 鑛三	クリスタル花瓶《鱗影》	1970 (昭和45) 頃	ガラス/宙吹・気泡封入、グラヴェール	田淵十一氏寄贈
佐藤 潤四郎	花器・馬車に乗るガラスの神様	1973-76 (昭和48-51) 頃	ガラス/宙吹・サンドブラスト	(株)ノリタケクリスタル寄贈
佐藤 潤四郎	オリンピックブルー硝子皿	1941 (昭和16) 頃	ガラス/宙吹	石井謙治氏寄贈
クリストファー・ドレッサー	瓶 (緑色クルーサ・ガラス)		ガラス	
クリストファー・ドレッサー	瓶 (茶色クルーサ・ガラス)		ガラス	
クリストファー・ドレッサー	ローマン瓶 (緑色クルーサ・ガラス)		ガラス	
クリストファー・ドレッサー	瓶 (緑色クルーサ・ガラス)		ガラス	
クリストファー・ドレッサー	花瓶 (赤色クルーサ・ガラス)		ガラス	
クリストファー・ドレッサー	プロペラ瓶 (緑色クルーサ・ガラス)		ガラス	
クリストファー・ドレッサー	瓶 (淡緑色クルーサ・ガラス)		ガラス	
クリストファー・ドレッサー	花瓶 (緑色クルーサ・ガラス)		ガラス	

ロビー展示 彫刻・他

作者名	作品名	制作年	技法・材質
●1階			
笠置 季男	躍進	1958 (昭和33)	セメント
●2階展示ロビー			
アリスティード・マイヨール	もの思い	1930	ブロンズ
北村 四海	井冰鹿の娘	1917 (大正6)	大理石
佐藤 忠良	群馬の人	1952 (昭和27)	ブロンズ
堀内 正和	顔	1955 (昭和30)	鉄、セメント
●前庭			
バリー・フラナガン	野兎と鐘	1988	ブロンズ